※令和４年度以降入学生用

学校番号	３００２

令和５年度　農業科（ハイテク農芸科）

教科	農業	科目	栽培技術	単位数	３単位	年次	２年次
使用教科書							
副教材等	「作物」「野菜」「果樹」「草花」　（いずれも実教出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

作物、野菜、果樹、草花などの栽培や生産、利用に関する基礎的、共通的な知識、技術について、座学や実習を通して学習します。また、内容は農作物の「栽培技術」に関する座学科目と農作物の栽培管理や繁殖、栽培環境に関する技術の両面から学び、体系的に身につけていきます。対象となる植物をよく観察して、日々の栽培管理はもちろん、繁殖技術や出荷調整、販売方法など実践的に学んでいきましょう。

２　学習の到達目標

・農業に関する基礎的な知識と技術を習得する。

・科学的思考力と問題解決能力を養う。

・農業の生産と経営の各分野に関連する力を自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を育む。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	園芸植物の栽培育成や農場の構成や維持管理などについて、基礎的な知識を身につけ、農業及び農業生産を科学的に理解している。 園芸植物の栽培育成や農場の構成や維持管理などについて、基礎的な技術を身につけ、活用することができる。	園芸植物の栽培育成や農場の構成や維持管理などについて、科学的考える習慣を身につけ、判断しようとしている。 また、これらの諸課題の解決をめざして思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、課題を適切に解決するとともにまとめることができる。	園芸植物そのものや、その栽培育成方法、生産基盤である農場の構成や維持管理について興味・関心を持ち、科学的に捉えて合理的に解決しようとする実践的な態度を身につけている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	人間生活と農業、園芸 植物の成長と環境 繁殖技術	○園芸植物と栽培管理 ○土壌の生態 ○植物の生理・生態 ○栽培と環境 ○種子繁殖技術 ○栄養繁殖技術	a:繁殖に関する基礎的な技術を身につけ、その技術を活用できる。種子繁殖、栄養繁殖について理論的に理解している。 b:植物にはそれぞれ適した繁殖方法があることを学び、最適な環境について考え、判断できる。 C:植物や繁殖技術について、興味関心を持つ。	実習記録ノート レポート 定期考査 学習状況の観察	実習記録ノート レポート 定期考査	実習記録ノート 学習状況の観察
2学期	農業と環境 栽培環境 施肥技術 かん水技術	○農業と地球環境 ・物質循環 ○GAP ○植物栽培と環境 ・地上部環境 ・地下部環境 ・生長と栄養 ・肥料の種類 ・養液栽培 ○かん水の技術	a:栽培に関する基礎的な技術を 、技術を活用できる。栽培環境に関する理論と技術との関係を理解している。 b:植物の成育に関する要素について、栽培管理上の技術と関連付けて考え判断、表現できる。 c:植物の成長に関係する要素の役割や働きに関心を持ち、栽培管理に意欲的に取り組んでいる。	実習記録ノート レポート 定期考査 学習状況の観察 発表 自己・相互評価	実習記録ノート レポート 定期考査 発表 自己・相互評価	実習記録ノート 学習状況の観察 発表 自己評価
3学期	食糧生産と農業 農地の構成と改善技術 整枝・剪定技術	○園芸植物の栽培 ○食糧生産と農業 ○人間生活と園芸 ○社会変化と消費動向 ○測量・農地の構成要素 ○耕うんと畝たて ○農業機械の操作 ○植物の成長と姿 ○樹形、草勢の調節 ○整枝と剪定 ○摘心と摘蕾	a:食料生産に関する農業機械の操作ができる。作物の成長を維持促進させるための技術を身につけている。農場管理や剪定技術を理解している。 b:農場の役割や機能について考えて栽培管理について総合的に判断できる。植物成長に与える効果について理論的に考え判断して作業ができる。 c:農作物の栽培に意欲や関心を持っている。植物の成長を制御する技術に興味関心をもち、栽培管理に意欲的に取り組んでいる。	実習記録ノート レポート 定期考査 学習状況の観察 発表 自己・相互評価	実習記録ノート レポート 定期考査 発表 自己・相互評価	実習記録ノート 学習状況の観察 発表 自己評価

※令和４年度以降入学生用

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度